

2024年度事業報告

自 2024年 4月 1 日

至 2025年 3月31 日

公益目的事業

視能障害防止および眼保健衛生の普及・啓発を図ることによって国民の健康維持向上に寄与することを目的とした健診・調査・広報・出版・災害時支援事業と、視能に関する学問・技術の発展と優れた人材育成を図ることによって臨床現場で質の高い医療を提供することを目的とした学会・講習研修・教育事業

【1】国民への眼保健衛生の普及・向上に関する事業

1. 健診に関する調査・支援事業(以下、健診事業)

- (1) 新生児から成人に至るまでの視覚に関する情報を日本視能訓練士協会ホームページ(以下、ホームページ)に掲載した。
- (2) 視覚感受性期にある乳幼児を対象とした「目の健康チェックシート」ならびに3歳児健康診査視覚検査の重要性を啓発するポスターをホームページに引き続き掲載(ダウンロード可能)し、乳幼児期に発見し治療すべき疾患への注意を促した。なお「目の健康チェックシート」の内容を見直し、必要に応じて一部改変を行った。
- (3) 3歳児健康診査眼科検査での眼科検査方法を解説した「3歳児健康診査における視覚検査マニュアル(第2版)」ホームページに引き続き掲載し(ダウンロード可能)、3歳児健康診査眼科検査の検査技術及び精度の地域格差を改善するよう努めた。
- (4) 3歳児健康診査眼科検査における家庭での視力検査方法を解説した動画をホームページに引き続き掲載した。これにより3歳児健康診査眼科検査での異常検出精度を向上させるよう努めた。
- (5) 成人以降に発症する眼疾患への注意を促すための成人版「目の健康チェックシート」として「あなたの目、本当に大丈夫ですか？」をホームページに引き続き掲載(ダウンロード可能)した。成人健診における眼疾患の早期発見・早期治療のために「目の健康チェックシート(成人版)」を各市区町村保健センターへ配布し、早期に発見すべき緑内障等の眼疾患予防への注意を促すための啓発活動を行った。
- (6) 第8回3歳児健康診査(視覚検査)従事者向け研修会を開催した。
2025年2月オンデマンドにて開催した。
- (7) 超高齢化社会における中途視覚障害者の増加に伴い、質の高いロービジョンケアを提供するため、視能訓練士のロービジョンケアの知識技術を向上させるよう努めた。
- (8) 国立障害者リハビリテーションセンターで開催される「視能訓練士ロービジョン研修会」に協力した。
- (9) 小中学生を対象にした文部科学省主催の児童生徒の全国近視実態調査研究事業の結果を活かし社会全体で児童生徒の視力低下を防ぐための啓発活動を行った。
- (10) 国民の健康寿命の延伸のため地域包括ケアシステムへの参加を念頭に、視能訓練士が実施できる高齢者の視能管理への可能性を検討した。
- (11) 日本眼科啓発会議を中心とするアイフレイル対策活動事業に協力し、国民の目の健康寿命を

延伸するための啓発活動を行った。

2. 広報事業

- (1) ホームページ等を通じて社会へ眼保健衛生の啓発と推進を行った。
- (2) ホームページに倫理規程を公示し、視能訓練士の職業倫理の高揚と業務への責任を喚起する活動を行った。
- (3) 6月第一月曜日の「視能訓練士の日」に関連する事業として、イベントをオンライン形式にて開催した。
- (4) 協会ポスターとリーフレット、動画を会員や関連諸団体へ配布、案内して「視能訓練士」の名称および職務を国民に向けて広報した。
- (5) 全国で開催される「目の愛護デー」関連事業へ参加協力し、眼保健衛生の普及・向上に努めた。
- (6) 東京都眼科医会が主催するTokyo Eye Festival2024、第2回東京ロービジョンサポートフェアに参加し、視機能に関するトピックスを来場者に紹介することを通じて、視能訓練士がQuality of visual life に果たす役割を広くアピールした。2024年10月12日(土)13(日)：新宿駅西口イベント広場
- (7) 東京都看護協会がナイチンゲール生誕記念事業として主催する「看護フェスタ」へ参加し、眼疾患の早期発見の必要性やアイフレイルを啓発するパンフレットおよび視能訓練士に関するリーフレットを配布した。2024年5月18日(土) 会場：東京都看護協会会館
- (8) 中学生・高校生に対しては積極的に視能訓練士の職務を紹介し、視能訓練士の職業紹介の動画を動画視聴サイト、並びにホームページに掲載し、視能訓練士を目指す中高生や養成校に周知し活用した。
- (9) 視能学を学び、視能訓練士を目指す学生に対してJACOメイト制度を活用し、在学中から臨床で必要とされる知識を養い、本協会の事業を紹介し協会活動への興味や理解を促した。
- (10) 養成校に理事を派遣して協会事業の理解を促した。
- (11) ホームページの拡充を行った。
- (12) 知名度向上・組織率向上のためのプロジェクトを継続し、イベントの開催や会員支援活動を行った。

3. 調査事業

- (1) 視能矯正・訓練普及の実態調査を行った。
- (2) 視機能の病態および視能矯正の実態調査を行った。
- (3) 5年毎に行う視能訓練士に関するアンケート調査および実態調査報告書の発行に向けた準備を行った。2024年8月1日(木)～9月20日(金)の期間で調査を実施した。
- (4) 新規免許取得者の就業状況調査を行い、就業傾向を把握するよう努めた。
- (5) 日本視能訓練士協会定款施行規則を検討し、必要に応じて改定した。
- (6) 視能訓練士雇用状況調査、雇用推進に向け準備を行った。
- (7) 日本視能訓練士協会の知名度向上調査会議を行った。

4. 渉外事業

- (1) 国内関係諸団体との相互の協力について交流を密にするよう努めた。
 - 1) 監督官庁(内閣府)及び関係官庁(厚生労働省・文部科学省)へ、協会の現況について連絡交流を図った。
 - 2) 研究諸団体(日本眼科医会・日本眼科学会・日本弱視斜視学会・日本眼光学学会・日本小児眼科学会・日本ロービジョン学会・日本視野画像学会等)と学術・技能向上の提携交流を図った。
 - 3) 国際医療技術財団・医療技術者21団体協議会・東京都医療従事者ネットワーク連絡会等に参加し、医療技術者団体間の交流を図り、医療技術者の相互理解を深めた。
 - 4) 国民医療推進協議会へ参加し、参加団体と協力して国民皆保険制度を守る活動を行った。
 - 5) チーム医療推進協議会へ参加し、医療技術者団体間の連携を深め、医療技術者の社会的地位向上と超高齢化社会に適応したチーム医療の推進に向けた活動を行った。
- (2) 国外の視能矯正学分野・視能訓練士に関係する団体と交流し、知識・技術の提携を行った。
 - 1) 国際視能矯正協会と連携し国際協力・貢献事業を行った。
国際視能矯正協会(IOA)理事会出席した。2024年5月30日(木) 31日(金) ノルウェー国オスロ市
国際視能矯正協会(IOA)総会出席した。2025年2月1日(土) オンライン開催
 - 2) 国際学会発表支援プログラムを実施し、会員の国際学会での学術発表を支援した。
 - 3) 日本の視能訓練士の特色を活かした国際協力の方策、アフターコロナ時代に適応した国際交流・支援を検討した。
- (3) 国内の視機能に関係する団体および学会への後援を通し協力することで知識・技術の向上を図った。
 - 1) 第13回日本視野画像学会学術集会(新潟)
第25回日本ロービジョン学会学術総会(埼玉)
第32回視覚障害リハビリテーション研究発表大会を後援した。
 - 2) 光学と眼鏡に関する研修会を後援し、次年度の開催準備に協力した。
2024年 眼光学チュートリアルセミナーを後援した。
第6回 2024年10月8日(火)～11月7日(水) オンデマンド開催
第7回 2024年11月20日(火)～12月19日(木) オンデマンド開催
第6回参加者220名、7回参加者218名
- (4) 地域ブロック会議を開催した。
 - 1) 地域との連携を強化した。
 - 2) 災害等緊急時における安否確認などの連絡網を強化し、必要に応じて早急に対処した。
 - 3) 各地域ブロック間の情報交換が密にできるように準備した。
- (5) 日本視能訓練士協会の戦略企画会議を行った。

5. 出版事業

- (1) 日本視能訓練士協会誌(学術論文集、第54巻)を雑誌として発刊し、電子ジャーナル(J-STAGE)を公開した。

(2) 日本視能訓練士協会会報(第143号、第144号)を2024年10月と2025年3月に発行した。

6. 災害時支援事業

- (1) 東日本大震災を契機に発足した眼科医療活動「日本眼科災害対策会議」へ参加協力し、今後起こりうる災害を想定し、被災者を対象とした眼科検診を検査面から支援した。
- (2) 「災害時の視覚障害者の支援に備えた連絡会議」へ参加協力し、今後起こりうる災害時に視覚障害者への支援活動に対し関連団体が連携し、より効率的な支援を行った。
- (3) 首都圏で大規模災害が発生した時にも公益目的事業を遂行できるような事務局環境整備を行い、かつ会員の安否状況や被害状況を把握し迅速に対応できるよう災害対策マニュアルの策定および事務局環境整備を行った。

【2】国民に良質で安全な医療技術を提供するための視能訓練士教育事業

1. 学会事業

(1) 日本視能矯正学会を開催し、次年度以降の学会開催準備を行った。

1) 第65回(2024年)学会開催準備及び開催

会期：2024年11月2日(土)～3日(日)

学会長：内川義和(国際医療福祉大)

名誉会長：新井田孝裕(国際医療福祉大)

会場：ライトキューブ宇都宮(ハイブリッド開催)

テーマ：「つなげる、ひろげる、未来への一歩」

参加者 1927 名 (会員 1307 名、非会員 257 名、学生 363 名)

2) 第66回(2025年)学会開催準備

会期：2025年10月25日(土)～26日(日)

学会長：岡真由美(川崎医療福祉大)

名誉会長：三木淳司(川崎医科大)

(2) 日本臨床眼科学会視能訓練士プログラムを開催し、次年度の開催準備を行った。

1) 第78回日本臨床眼科学会視能訓練士プログラムを開催した。

会期：2024年11月14日(木)～17日(日)

会場：国立京都国際会館、ザ・プリンス 京都宝ヶ池

テーマ：ICT教育における児童生徒の視機能管理

オーガナイザー：柏井真理子(柏井眼科医院)、藤村英佐子(北里大)

生涯教育単位付与者 213名

2) 第79回日本臨床眼科学会視能訓練士プログラムの開催を準備した。

会期：2025年10月9日(木)～10月12日(日)

会場：大阪府立国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪

テーマ：視能訓練士(CO)が知っておくべき、複視を伴う斜視の診断と治療

(3) 第78回日本臨床眼科学会インストラクションコースに「斜視の視能訓練」をテーマとしたプログラムを企画し開催した。

2. 講習研修事業

(1) 講演会を開催し、次年度の開催準備を行った。

1) 第39回講演会開催準備 2024年6月3日(月)～6月28日(金): オンデマンド開催

講演内容: 「医療現場における対人トラブル対応」

演者: 蒔田 覚(日本視能訓練士協会顧問弁護士)

2) 第40回講演会開催準備 2025年6月2日(月)～2025年6月30日(月) オンデマンド開催

演者: 近藤 峰生(三重大大学)

(2) 研修会を開催し、次年度の開催準備を行った。

1) 第22回研修会開催準備 2024年6月3日(月)～6月28日(金): オンデマンド開催

研修内容: 「医師の働き方改革で変わる医療現場、タスク・シフト/シェアについて」

2) 第23回研修会開催準備 2025年6月2日(月)～2025年6月30日(月) オンデマンド開催

第39回講演会・第22回研修会参加者 1817名(正会員 1759名、JACOメイト58名)であった。

3. 教育事業

(1) 視能訓練士生涯教育制度の各教育プログラムを実施した。

1) 新人教育プログラム

講義日程

2024年9月18日(水)～10月23日(水)

オンデマンド開催

受講者138名(リカレント受講11名含) 修了者127名

技術日程ブロック単位開催

北海道ブロック

8月25日(日)

両眼視・眼位・眼球運動検査

吉田学園医療歯科専門学校

東北ブロック

9月15日(日)

両眼視・眼位・眼球運動検査

東北文化学園大学

9月16日(月祝)

視野検査

東北文化学園大学

10月6日(日)

視力・屈折検査

東北文化学園大学

関東甲信越ブロック

9月29日(日)

視力・屈折検査

帝京大学

12月8日(日)

視野検査

帝京大学

2025年1月26日(日)

両眼視・眼位・眼球運動検査

帝京大学

東京ブロック

9月29日(日)

視野検査

帝京大学

12月8日(日)

両眼視・眼位・眼球運動検査

帝京大学

2025年1月26日(日)

視力・屈折検査

帝京大学

東海・北陸ブロック

10月13日(日)

視力・屈折検査

真生会富山病院

10月14日(月祝)

両眼視・眼位・眼球運動検査

真生会富山病院

10月20日(日)

視野検査

真生会富山病院

近畿ブロック

6月23日(日)	視野検査	大阪人間科学大学
7月7日(日)	両眼視・眼位・眼球運動検査	兵庫医科大学
8月4日(日)	視力・屈折検査	関西医科大学附属病院
中四国ブロック		
7月7日(日)	視力・屈折検査	川崎医療福祉大学
11月10日(日)	視野検査	川崎医療福祉大学
2025年2月16日(日)	両眼視・眼位・眼球運動検査	川崎医療福祉大学
九州ブロック		
9月15日(日)	視力・屈折検査	福岡国際医療福祉大学
9月16日(月祝)	視野検査	福岡国際医療福祉大学
10月6日(日)	両眼視・眼位・眼球運動検査	熊本大学病院臨床医学研究棟

2) 基礎教育プログラム

基礎教育プログラムⅡ

2024年7月24日(水)～8月28日(水) オンデマンド開催

受講者197名 (リカレント受講14名含) 修了者182名

基礎教育プログラムⅢ

2024年10月26日(土) 視能障害学 機械振興会館(東京)

受講者14名 修了者14名

10月27日(日) 視能矯正学 機械振興会館(東京)

受講者21名 修了者21名

2025年1月18日(土) 視能障害学 CIVI研修センター新大阪東(大阪)

受講者43名 修了者43名

1月19日(日) 視能矯正学 CIVI研修センター新大阪東(大阪)

受講者45名 修了者45名

3) 専門教育プログラムⅡ(視能訓練学)

2024年7月13日(土)～15日(月祝) CIVI北梅田研修センター(大阪)

受講者11名 修了者7名

専門教育プログラムⅡ(光学・眼鏡)

2024年9月14日(土)～16日(月祝) 第一セントラルビル1号館・
眼鏡医療技術専門学校WOC(岡山)

受講者21名 修了者21名

専門教育プログラムⅢ

受講修了者23名

2024年6月19日(水)～7月10日(水) オンデマンド開催

(2) 視能訓練士臨地実習指導者講習会を主催した。(後援：全国視能訓練士学校協会)

I期 2024年7月1日(月)～7月29日(月) 講義 オンデマンド配信

2024年8月4日(日) グループワーク ライブ配信

II期 2024年8月5日(月)～9月1日(日) 講義 オンデマンド配信

2024年9月8日(日) グループワーク ライブ配信

III期 2025年1月20日(月)～2月16日(日)

2025年2月23日(日)

2024年度受講修了者168名

講義 オンデマンド配信

グループワーク ライブ配信

- (3) 施設見学研修を実施した。
- (4) 国民に眼保健衛生に関する最新の情報を提供するため、ホームページやメール等を活用し会員に最新医療情報の提供を行った。
- (5) 「眼科コメディカルビデオシリーズ」のDVDを希望者に貸し出し、技術研修に役立てた。
- (6) リカレント教育を行った。
- (7) 臨地実習指導ガイドライン作成の準備を行った。

その他の事業(相互扶助等事業)

視能訓練士の資質向上を目的とした自己研鑽を奨励し、学術技能を評価して認定および表彰する事業

1. 認定視能訓練士に関する事業

- (1) 視能訓練士生涯教育制度基礎教育プログラムを修了し、所定の条件を満たす者を「認定視能訓練士」と認定し、以後5年ごとに認定更新を行った。
- (2) 専任教員認定制度の認定条件を満たす者を「認定専任教員」と認定し、以後5年ごとの認定更新を行った。
- (3) 眼鏡レンズに関する研修を開催した。

2. 学術奨励賞に関する事業

- (1) 2024年度に発行予定の日本視能訓練士協会誌第54巻に投稿された学術論文の対象論文から第16回学術奨励賞を選考したが、該当者なしだった。

3. 生涯教育に関する事業

- (1) 第65回日本視能矯正学会にて第14回生涯教育セミナーを行った。
- (2) 第65回日本視能矯正学会にて第7回認定視能訓練士セミナーを行った。
- (3) オンデマンド講座を追加公開した。
- (4) 視能訓練学育成コースを行った。
- (5) 視能障害学育成コースを行った。

「附記」

2024年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な項目」が存在しないので作成しない。

以上